

お知らせ

糸魚川から発見された謎の甲殻類（サイクラス）の化石について

平成 21 年 8 月に、糸魚川市小滝の石灰岩から、広島大学の児子修司（にこ しゅうじ）博士によって発見され、フォッサマグナミュージアムの学芸員 茨木洋介と共同で研究された化石が、謎に満ちた甲殻類（エビ・カニを含む生物のグループ）に属するサイクラスという名の生物の化石であり、東アジアで初めて見つかったサイクラスであること、サイクラスの中では世界でも最古級のものであることがわかりました。この化石についての論文が地質学雑誌 4 月号に掲載されました。詳細は下記のとおりです。

1. 2009 年 8 月、広島大学総合科学部の児子修司博士が、フォッサマグナミュージアムに収集してあった糸魚川市小滝産の土倉沢石灰岩から化石を見つけた。
2. 児子博士とフォッサマグナミュージアムの学芸員 茨木洋介がこの化石を研究した結果、甲殻類サイクラス属に属する新種であることがわかった。この化石は新種として サイクラス タザワイ (*Cyclus tazawai*) と名付けられた（本県の古生物研究の第一人者である新潟大学名誉教授の田澤純一先生にちなむ）。
3. 今回の化石は、同じ土倉沢石灰岩から見つかる有孔虫の化石から、石炭紀前期（3 億 3 千万年前）のものである。
4. 今回見つかった化石は、甲殻類サイクラスの背甲（はいこう）1 点で、大きさは直径約 4mm である。
5. サイクラスの化石は、今回のものと同じ時代（石炭紀前期）のものはこれまでにアイルランド、イギリス、ベルギー、北アメリカから見つかっている。石炭紀以降のものは、オーストリア、ボスニア、ポーランド、ロシア、中央アジア、フランス、ドイツ、オランダ、イタリア、マダガスカルから見つかっている。生存期間は古生代石炭紀前期（3 億 3 千万年前）から中生代白亜紀後期（7 千万年前）である。
6. サイクラスは、海に生息していた甲殻類であることはわかっているが、現在生きている甲殻類の中の何に近い生物であるのかわかっていない、謎の多い生物である。
7. サイクラスの生態（生息場所、何を食べていたか）についても謎が多い。①海底でカニのよう

に生きていた、②サメなどの魚類にくっついて生きていた、の2説がある。

8. 今回発見された甲殻類サイクラスについての論文が、地質学雑誌 2011 年 4 号（日本地質学会発行）に掲載された。 著者名：児子修司・茨木洋介
9. 今回化石が見つかった土倉沢石灰岩から、国内初産出・世界初産出の化石の発見が続いており、研究を継続することによって国内で随一の地質多様性を持つ糸魚川ジオパークの価値がさらに高まるだろう。
10. 今回見つかった化石は、フォッサマグナミュージアムにおいて 6 月 1 日（水）から公開する予定である。

質問は下記までお願いします。化石の写真データ（jpeg ファイル）が必要であれば提供いたします。

フォッサマグナミュージアム 茨木 洋介（学芸員）

Tel. 025-553-1880

Fax. 025-553-1881

E-mail: yousuke.ibaraki@city.itoigawa.niigata.jp

941-0056 新潟県糸魚川市一の宮 1 3 1 3 フォッサマグナミュージアム

以上